

地域の未来を創造する 「ライフデザイン教育」の推進

1 はじめに

近年、生成AIの登場や人生100年時代の到来により、産業構造や個人のライフスタイルなど、子供たちを取り巻く環境が大きく変化しています。また、福井県においては、令和6年3月に北陸新幹線が開業し、各地の駅や観光地を中心として、まちの姿も変化し、新たなにぎわいや人の流れが生まれています。

こうした社会や地域の変化の中で、子供たちが将来の夢や目標を描き、それに向けて挑戦する力を育むためには、「あるべき地域の未来」や「なりたい自分」を自ら構想し、未来を起点として、自らの将来を選び取っていく姿勢が重要であると考えています。

そこで、本県では、地域との関わりの中で、自分の将来や生き方を考える機会をできるだけ多く提供する「ライフデザイン教育」を推進しています。生徒一人

ひとりが「地域の未来」と「自分の人生」がつながっていることを理解し、「地域社会をもっと良くしたい」という意識を育むことを目指し、地域について学び、考える機会の充実を図るとともに、地域の課題解決や価値向上に挑戦する生徒を応援しています。

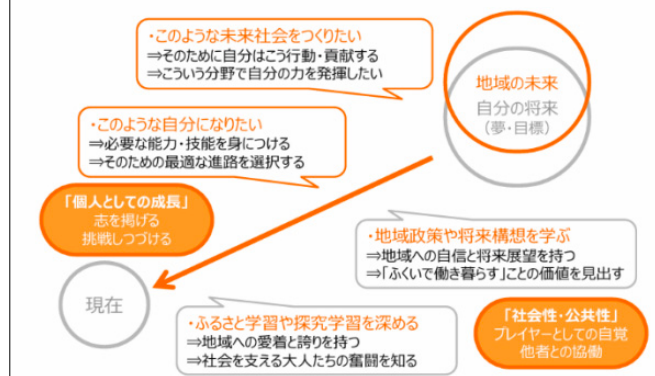
2 「地域デザイン講座」の開催

本県では、「ライフデザイン教育」の一貫として、令和6年7月から藤丸伸和県教育長が講師となり、福井県の将来と地域政策について考える「地域デザイン講座」を開催しています。

令和8年6月までに延べ33校において講座を開催し、1,600人以上の生徒が受講しました。講座では、福井県の良さや課題についてグループワークで話し合うとともに、人口減少対策や新幹線開業後の福井の変化などを伝え、2040年を目途とする望ましい「地域の未来」

ライフデザイン教育のイメージ

フォアキャストからバックキャストへ（未来を起点考える）



【地域デザイン講座での講義の様子】

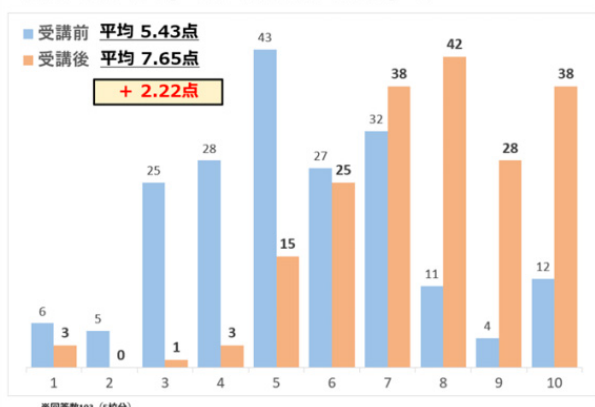
を自ら考えるワークを行っています。地域の未来をつくるのは生徒一人ひとりの「志と行動」であることを伝え、自分の人生と地域との関わり方についての自覚を促しています。

受講後のアンケートでは、受講した生徒のうち、約8割が「福井の未来に希望が持てた」と回答しているほか、受講前後で「福井で暮らしていることに誇りを持つ気持ち」や「将来福井で暮らしたいと思う気持ち」が大きく増加しています。

また、「今まで知らなかった福井の良さを知ることができた」「将来、福井のために何かしてみたいと思った」などの感想が寄せられるなど、講座が地域への自信と貢献意欲に繋がっています。

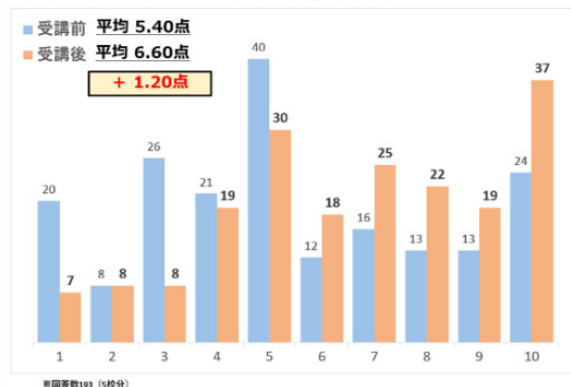
○福井の暮らしへの誇り（受講前後の変化）

①福井で暮らしていることに誇りを持っているか。
（「誇りを持っている」=10、「誇りを持っていない」=1）



○将来の福井への居住希望（受講前後の変化）

②将来、福井で暮らしたいと思うか。
（「福井で暮らしたい」=10、「福井で暮らしたくない」=1）



【受講者アンケートの結果】

3 地域の産業・企業と連携した学び

本県には、国内外で大きなシェアを有している製品や先端技術を有する企業が多数所在しています。こうした国内や世界で活躍する地域の企業を知ってもらうことは、高校生が将来の進む方向を考えるうえで極めて重要であると考えています。

本県では令和3年度から、県内の企業・団体の皆様と連携し、工業や農業、商業などの専門知識を学ぶプロ人材高校の1年生を対象とした一斉オンライン授業「ふくい産業」を実施しています。

本授業では、産業界の第一線で活躍する企業の経営者や技術者を講師としてお招きし、各企業の事業内容や技術の強み、仕事のやりがいなどについてお話しいただいています。あわせて、生徒からの質問に直接お答えいただく機会も設けています。こうした取組を通して、将来本県の産業を担っていくプロ人材高校の生徒たちが、県内企業の仕事内容や魅力への理解を深めるとともに、地元で働くことの意義や可能性について考えるきっかけとなっています。

令和7年度には県内の企業・団体12社にご協力いただき、プロ人材高校の全ての1年生53クラス、約1,600人に授業を実施し、県内産業・企業の魅力を発信しました。生徒からは「福井の企業が支えてくれているおかげで、私たちの生活が成り立っていると分かった」

地域の文化を活かして
福井に人を呼ぼう！

株式会社デキタ
代表取締役
時間 壮太
DEKITA



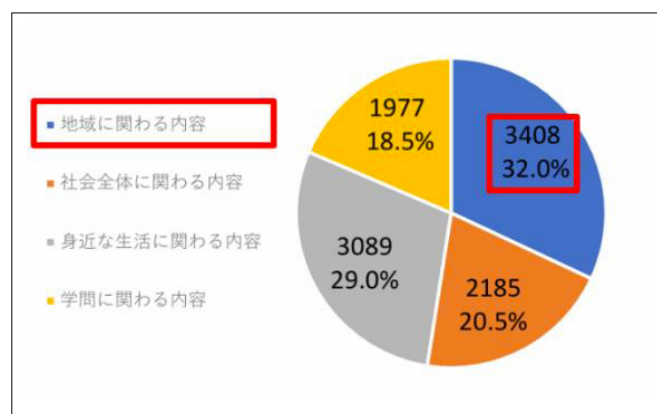
【県内企業経営者による講義】

「様々な会社が働きやすい職場や挑戦しやすい環境づくりに取り組んでいることを知ることができた」などの声が寄せられており、地域企業への関心や理解の向上につながっています。

4 地域と関わる探究活動の推進

本県では早くから「探究学習」に力を入れており、県立若狭高校で長年にわたり生徒が取り組み、開発された「宇宙サバ缶」は今春のドラマにもなりました。

「探究学習」は生徒自身の興味関心に基づき、テーマ設定を行い、内容を掘り下げていく取り組みですが、県では全高校生対象の「キャリアデザイン調査」を毎年実施しており、その中で、どの分野の探究学習を行っているかを聞いてみました。その結果、「地域にかかわる内容」と答えた生徒が32.0%と最も多く、次いで「身近な生活にかかわる内容」が29.0%、「社会全体にかかわる内容」が20.5%、「学問に関わる内容」が18.5%となりました。



【学校で取り組んでいる探究活動の内容】

この「地域をフィールドとした学び」には、次のような教育効果があると考えます。

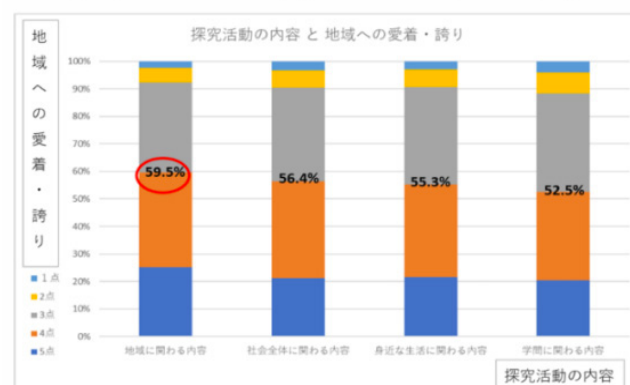
一つ目は、「社会の担い手としての自覚を醸成」することです。生徒は探究活動を通じて、企業、団体、行政、地域住民など、地域の発展や課題解決に携わる多くの

人々と関わります。その過程で、地域社会が多様な主体の支えによって成り立っていることを理解するとともに、自らも将来、地域を担う存在であることを認識できるようになります。

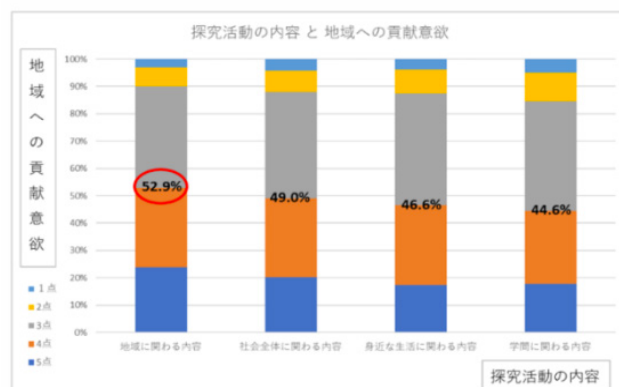
二つ目は、「実社会で役立つ課題解決力を育成」できることです。地域探究は「実践」が重要となります。机上で考えたことを実行に移すことの困難さを知ることにもなり、また、結果を検証し、改善に結び付けるプロセスを学んでいきます。

三つ目は、「体験による深い学びを体得」できることです。教育の本質は「体験」にあると考えます。具体的な行動実践を通して、生徒たちは手ごたえのある達成感や、または失敗した経験など、知識の習得だけでは得られない深い理解をもたらし、主体的な学びを支える大きな力となります。

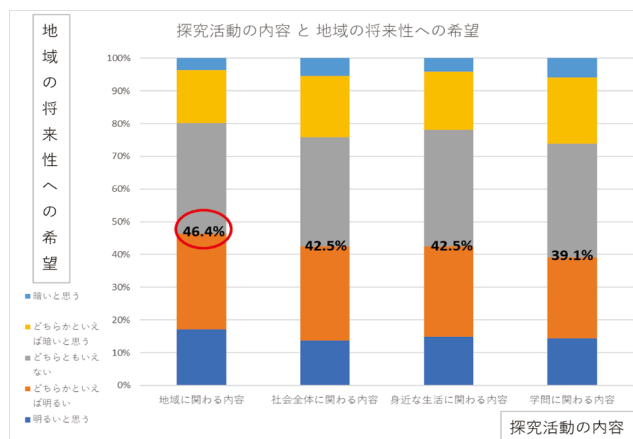
分析①「探究活動の内容」×「地域への愛着・誇り」



分析②「探究活動の内容」×「地域への貢献意欲」



分析③「探究活動の内容」×「地域の将来性への希望」



キャリアデザイン調査からは、「地域探究」を行っている生徒ほど、「地域への愛着・誇り」が高く、また、「地域への貢献意欲」も高いことが分かりました。さらに、「地域の将来が明るいと思う」割合も高くなっています。この3つの項目は相互に関連しており、これらをまとめて「地域の希望」と呼ぶことにしますが、この「地域の希望」を高めることが極めて重要であると考えています。

「地域の希望」を高める方策としては、「地域に関わる探究活動」や「学校外の地域活動への参加」、また、「地域デザイン講座」のような「地域政策と将来構想の学び」が有効であることが分かりました。

さらにデータからは、「地域の希望」を感じている人ほど、自分の幸せ実感（個人のウェルビーイング）が高く、また、将来、福井県に住みたいと思う割合が高いことが分かってきました。つまり、「地域への希望」は、将来の地域への居住希望を高め、持続可能性という観点からは「地域のウェルビーイング」を高めることにもなるわけです。

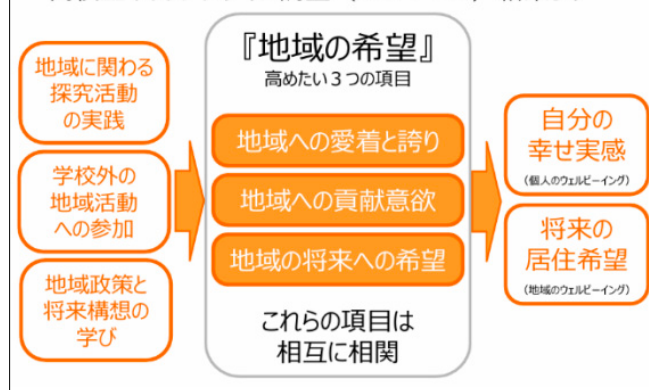
「地域の希望」は、生徒にとっての「成長の土台」です。地域に大きく根を張り、地域に感謝と自信を持つ。その確かな基盤の上にこそ、将来幹を伸ばし、枝葉を大きく広げることができると考えています。

こうした観点から、本県では、ふるさと学習や探究

学習などを通じて、生徒が地域と関わる機会を積極的に創出するとともに、地域への理解を深めることにより、「地域の希望」をともに創る教育を推進しています。

地域の希望とウェルビーイング

・高校生キャリアデザイン調査（R7.11～12）結果より



5 高校生チャレンジアワードの開催

本県では、令和7年度から、高校生による「福井の魅力向上や地域の課題解決に向けた取り組み」を募集・表彰する「高校生チャレンジアワード」を開催しています。

本アワードでは、「福井をもっとおもしろく!」をテーマとして、探究学習をはじめとした学校での活動に加えて、部活動や自主的な学校外での活動を含め、幅広く募集を行いました。また、活動内容の評価にあたっては、結果が失敗に終わった場合でも、その過程を重視するなど、チャレンジを評価しています。

令和7年度には、県立高校17校、107チームから応募があり、322名が参加しました。

応募された取り組みは、まちづくりのためのNPO法人の立ち上げや福井に在住する外国人と地域住民の交流を促す企画の開催、地域の伝統食品の収益拡大、地域の鉄道の利用拡大など多岐にわたり、福井の魅力向上や地域の課題解決に向けた多種多様な挑戦が多数見られました。

令和8年3月には、これらの取組の成果を発表する実

実践発表会を開催しました。107チームの中から、審査で選ばれた17チームが、多くの高校生や教職員の前でプレゼンテーションを行い、来場者による相互投票を経て、最優秀賞1件、優秀賞5件を選出・表彰しました。

「高校生チャレンジアワード」については、令和8年度にも開催を予定しており、引き続き地域に飛び出し、チャレンジする高校生を応援していく予定です。

沢や生き方につながり、やがては地域の担い手として活躍していく人材の育成へとつながることを期待します。



【高校生による発表および優秀者への表彰】

6 おわりに

これまでにご紹介した取り組みにより、県立高校では、多くの生徒が地域に関心を持ち、地域についての理解を深め、地域の中で挑戦を行う姿が着実に広がっています。

こうした積み重ねの中で、生徒が福井や地域の未来に希望を持ち、地域の一員として関わり続けたい、地域の未来を支えていきたいと感じられるようになることを目指しています。そして、その思いが将来の進路選